

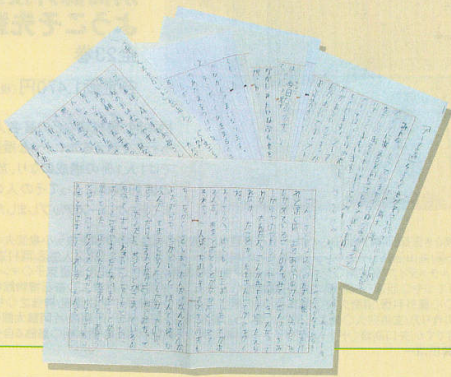


団体賞



群馬県 学校法人太田国際学園 ぐんま国際アカデミー初等部

国語部門、社会部門、生活部門、英語部門にご応募いただきました。とくに、国語部門への応募点数が一番多かったようです。国語部門では、毎年「読書感想文」で苦戦している作品が多くみられ、大半があらすじの羅列になっていたり、感想のみで内容が伝わってこなかったり…という状況です。また、人に読んでもらうという姿勢が伝わりにくい「誤字・脱字」の多い作品、丁寧に清書できていない作品もまだまだ見られます。そんな中で、ぐんま国際アカデミー初等部の作品は、上手く感想がまとめられ、文章の引用も効果的でした。今回は、初めての応募ということでしたが、平均してレベルの高さがうかがえたので、評価の対象となりました。



東京都 私立田園調布雙葉小学校

英語は、いま、会話する力がなかなか身につかない教育の現状があり、英語教育のありかたが見直されています。総合的な学習の時間に、小学校でもネイティブを招いたり、「英語」を取り入れている学校は多いようですが、学校によって取り組み方はさまざまです。英語に親しむというところから、一歩すすみ、会話をするというところまで到達することは、かなりの難題です。田園調布雙葉小学校は、毎年たくさんの応募をいただいています。平均してしっかりした発音が身につけていることに驚かされます。行き渡った指導がうかがえます。今後は、指導方法などにも注目していきたい学校です。



愛知県 岡崎市立竜海中学校

パソコンは、今や欠かすことができない媒体となっています。機能が充実している分、使いこなすのは、大人でも難しいことです。しかし、使いこなすことが重要なのではなく、まずはパソコンに親しむことが大切です。竜海中学校では、パソコンの活動を通して、基本的な操作がしっかりと浸透できているようです。作品からも、楽しみながら制作に取り組んでいることが伝わってきます。もう少し、「自分らしさ」を作品に表すことができれば、どんな審査員を唸らせてくれることでしょう。これからが楽しみです。



顧問審査員特別賞

特別顧問 竹下 景子

2005年は、「愛・地球博」が開催された年ということで、このコンクールにも万博に関する作品の応募が多数ありました。

今回、顧問審査員特別賞に選ばれた伊藤唯太郎君の『せかいのありがとうずかん』もその一つです。暑い万博会場に何度も足を運んで大変だったことでしょう。その夏休みの体験がよく生きた作品になりました。

今村彪雅君の『じゅぎょうさんかん』、金安美咲さんの『Christmas Present』、どちらの作品からも、家庭でのだんらんの様子や家族の笑顔が見えるようで、心が温かくなりました。審査を終えて、「人と人とのつながりの大切さ」を改めて教えられたような気がします。相手を認める気持ち、思いやる心、いつまでも大切にしてほしいですね。



国語部門 じゅぎょうさんかん

鹿児島県 鹿屋市立南小学校 2年 今村 彪雅

授業参観は、子どもにとって大きなイベントです。そこでの出来事を語りかけるように素直に表現しており、彪雅君の気持ちの変化がいきいきと伝わってきます。「ママ」を待つ彪雅君の不安やせせりが時間が追って書かれており、状況説明の表現も見事です。特に「ママ」が授業参観に来られなかった理由が弟の高熱だったことを知り、「一番悲しかったのは、ぼくじゃなくて、ママだった」ととらえている所に彪雅君の優しさや思いやりが良く表われています。「ママ」と家族を大切に思う気持ちが伝わり、読みながらも自然と笑顔になる作品です。

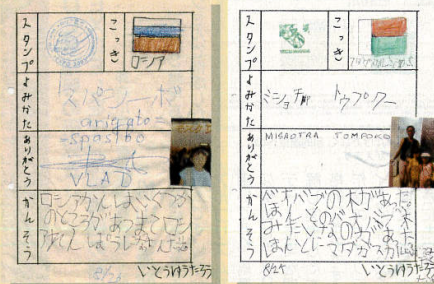
みんなのお母さんは来たのははくのママはまだこないんだ。ママ早くこないといじゅぎょうはじまっちゃうんだよ。(中略)
ママこないのかな。お友だちの顔はみんなニコニコしてるのに。はくの顔だけしぼんだ朝がおみたいになっちゃうた。さっきから何回もうしろを見てママをさがすんだ。でもはくの目にママはうつらなかつたよ。(中略)
おうちについて、はくがママで言おうと思うたら、はくより先に、「ひょうちゃん、おかえり。今日は、めんこいうようくんが四十のおねえをだして、どうしてもいけなかつたの。」
つてママがいはいそうに言って、はくをだきしめたよ。(中略)
はくわつたよ。一番かなしかつたのは、はくじゃなくてママだつたつていうことを。じゅぎょうさんかんを、ママだれよりも楽しみにしてるもんね。――抜粋――



生活科部門 せかいのありがとうずかん

愛知県 愛知教育大学附属岡崎小学校 1年 伊藤 唯太郎

愛知万博で、いろいろな外国の人にその国の「ありがとう」という言葉を教えてもらおう、というテーマです。万博をテーマにした作品が多くあったなか、「各国の人に手書きで「ありがとう」という文字を書いてもらう」という発想が目を引きました。実際にたくさんの国の人と触れ合い、「今まで日本語と英語しかないと思っていたけど、たくさんのことばがあると思った」「いろいろなことばをしゃべれるようになった」とまとめているように、愛知万博を十二分に活用し、自分の世界を広げることができた作品です。



英語部門 Christmas Present

茨城県 KTC外語学院ベビークイズクラブ下館教室 小学6年 金安 美咲

I'm Misaki Kaneyasu. I'm practicing a song of Carpenters. Because my mom and dad love their songs. I want to sing that for them at Christmas. Please listen.

TOP OF THE WORLD ♪
Such a feelin's comin' over me
There is wonder in most everything I see
Not a cloud in the sky
Got the sun in my eyes
And I won't be surprised if it's a dream...

まず何より、朗読でもスピーチでもなく歌をメインに作品を構成している点で、とても目立っていました。カーペンターズが大好きな両親へのクリスマスプレゼントにしたいと、とてもきれいな発音、歌声でTOP OF THE WORLDを歌ってくれています。美咲さんの心のやさしさが伝わるとてもあたたかい作品です。これからも、歌をたくさん覚えて、楽しみながら英語に親しんでくれることを期待します。